

別記様式第6号

足利市入札適正化委員会議事概要（平成25年度 第1回）

開催日及び場所	平成25年7月9日（火） 午後2時00分～4時00分 足利市役所 特別会議室	
委員	小林 康昭 委員長 森田 作雄 委員 岡本 篤典 委員 荘司 円香 委員	
審議対象期間	平成24年10月1日～平成25年3月31日	
抽出案件	4件	（備考） 総件数 158件 一般競争入札 74件 指名競争入札 79件 随意契約 5件
一般競争入札	2件	
指名競争入札	2件	
随意契約	0件	
<p>会議の概要</p> <p>（1）入札及び契約手続の運用状況等について （事務局より説明）</p> <p>◇発言の要旨</p> <p>●委員 発言なし</p> <p>（2）抽出事案の審議</p> <p>事案抽出の当番委員から抽出理由の説明があり、その後審議に入る。</p> <p>① 社会資本整備総合交付金事業 市道大月大沼田通り 法面工詳細設計業務委託 （事務局より説明）</p> <p>◇発言の要旨</p> <p>●委員 （業務委託については）材料費がなく人件費のみであるので、落札率が低くなることはあると思うが、際限なく低くなることに対する懸念はないか。</p> <p>○事務局 建設工事に関しては、最低制限価格があるので、それ以下にはならない。設計業務委託に関しては、最低制限価格がないので、低くなることも有り得る。工事</p>		

は、手抜き工事が考えられるため、最低制限価格を設けているが、業務委託の場合は、そうした懸念がないので、設けていない。

●委員

契約者は過去に足利市との契約実績があるか。

○事務局

昨年上半期に本案件の予備設計業務委託を請け負っている。

●委員

落札率が47.6%であるが、この程度の落札率で設計業務委託を行うのはよくあることなのか。

○事務局

60%台の落札率はよくあるが、50%を割るのは低いほうであると考える。

●委員

適正な仕事なら、問題はないと思われる。

○事務局

設計業務委託については、業務主任技術者のほかに、照査技術者をおいてチェックをさせ、その後、発注者においてさらに確認を行うため、手抜きはできないと考える。

●委員

低い価格ということは、仕事の成果が問われるので、特に低いものについては、厳しく査定をしてもらいたい。

② 市道樺崎田沼通り 災害復旧工事

(事務局より説明)

●委員

この工事に土工事を含むか。土工事が入っていると見積もり金額の差が開くのだが、ブロックを積んでモルタルを塗る作業だと、ほとんど金額の差は開かない。

○事務局

土工事はブロックを積む予堀として行うが、埋め戻し作業はしない。

●委員

2者の抽選案件であるが、どちらの業者とも足利で仕事を行ったことはあるのか。

○事務局

仕事は行っている。

③ 足利市公共下水道

山辺西部土地区画整理地区その5 築造工事 (第D-5工区)

(事務局より説明)

●委員

工事延長が90.8mから107.8mに伸びたのはなぜか。変更率が29.8%は大きいと思われる。

○事務局

この区域は区画整理事業として再整備している地域である。

発注当初、沿線で1軒移転していない家屋があったが、施工時までに移転交渉が進み、家屋移転ができるようになり、接続の必要が生じた。

区画整理事業の進捗に合わせ、下水道の管きょ築造を行い、下水道の整備と普及を進めている状況からこの案件（D-5工区）も切り離せなかったため、延長した。

④ 配水管布設替工事（県道足利環状線外）第2工区

（事務局より説明）

●委員

先ほどの案件もそうだが、変更理由がきちんとしている場合は、仕方ないと思うが、増額となった金額の算出方法を知りたい。

○事務局

配水管の延長による増額分、及び昭和4～5年に布設した配水管の老朽化による漏水対応のため不断水仕切り弁を設置するための増額、また、年度末のため、交通量が予想以上に多かったことから交差点ごとに交通誘導員をつけたこと、これらが増額した理由である。

●委員

そのような変更が生じたとき、請負者側から金額の提示を受け、市が認めるということになるのか。

○事務局

市の監督員が現場管理業務の中で増工の確認をし、変更分の積算設計を行う。また、その設計額に今回の落札率96.32%を乗じ、変更後の金額を算出する。

●委員

入札参加資格において、近接工事となる配水管布設替工事を施行中でないことを設定している理由は何か。

○事務局

（近接工事施行中の業者を除く理由の）一つとして、市内の業者で請負可能な業者に、なるべく多くの方に受注してほしいので、現に施行中の業者を除くため、近接の条件をつけている。

●委員

今回の変更理由として挙げた配管部材、夜間工事、整理員については、事前に

わからなかったのか。それとも対応していたが、予想よりも多かったということなのか。

○事務局

設計に当たっては、埋設されているガス・電気の会社の資料、手持ち資料を調べて、事前に知り得る資料で設計し発注している。

また、発注後、必要に応じて工事が始まる前に試掘をして、資料との差異を確認して進めている。

ただ、工事の整理員は、有る程度予想をしていたが、予想以上に交通量が多く、別の工事との兼ね合いもあり増員となった。

●委員

工期の延長の原因として、既設仕切り弁の故障や工事区間で発生した漏水事故対応などを挙げているが、請負業者の責任に帰するものはあったのか。

○事務局

不可抗力であった。水道管が昭和初期のものなので、慎重におこなった結果である。

●委員

水道建設工事請負人等選考委員会はどのようなレベルの人で構成する委員会なのか。

○事務局

管財課所管の一般の建設工事請負人等選考委員会と同メンバーで、副市長をトップにした5名のメンバーで行われている。

◇まとめ

(抽出事案の入札関係の業務が概ね適正に執行されていたか?)

●委員

(概ね適正であったと判断することで異議なし。)